

土木学会 コンクリート委員会 規準関連小委員会  
平成22年度 第1回委員会議事録

日時：平成22年5月6日（木）13：00～17：00

場所：土木学会A会議室

出席者：鎌田委員長，上野幹事長，浦野，小川，片平，加藤，田中，辻本，椿，原田  
中村，名取，西田，野島，野村，橋本，久田，堀越，濱田，三谷（敬称略）

配布資料：

- 1-0 平成22年度第1回規準関連小委員会議事次第（案）
- 1-1 平成21年度第5回規準関連小委員会議事録（案）
- 1-2 規準関連小委員会委員構成（案）（平成22年度）
- 1-3-1 規準本文案 JSCE-C 502
- 1-3-2 規準本文案 JSCE-D 107
- 1-3-3 規準本文案 JSCE-D 503
- 1-4-1 規準本文案 JSCE-E 103, E 112, E 515, E 516, E 518
- 1-4-2 規準本文・解説案 JSCE-E EP1, E EP5, E EP7, E EP10
- 1-5-1 フレッシュコンクリートWGの修正案の概要
- 1-5-2 PCグラウト用漏斗の寸法精度に関する検討報告書（案）
- 1-5-3 グラウトおよびモルタル用漏斗の寸法データ
- 1-6-1 規準本文案 JSCE-G 561
- 1-6-2 規準本文案 JSCE-G 562
- 1-6-3 規準本文案 JSCE-G 563
- 1-6-4 規準本文案 JSCE-G 564
- 1-6-5 規準本文案 JSCE-G 571
- 1-6-6 規準本文案 JSCE-G 572
- 1-6-7 規準本文案 JSCE-G 573
- 1-6-8 規準本文案 JSCE-G 574
- 1-6-9 規準本文案 JSCE-G 575
- 1-7-1 土木学会規準 K. 補修材 改正に関する概要資料
- 1-7-2 透湿度試験 フリーフィルムを得られない材料の場合に使用する被塗装基材の差異の検討
- 1-7-3 規準本文案 JSCE-K 522
- 1-7-4 JSCE規準の改正に関する概要資料（K561, 562, 571）
- 1-7-5 規準本文・解説案 JSCE-K 533
- 1-7-6 表面含浸材に関連する土木学会規準（K572およびK573）の変更内容について
- 1-7-7 規準本文案 JSCE-K 572
- 1-7-8 規準解説案 JSCE-K 572
- 1-7-9 規準本文案 JSCE-K 573
- 1-7-10 規準解説案 JSCE-K 573
- 1-8 土木学会 コンクリート標準示方書規準編2010年制定 講習会（案）

議事：

### 1. 委員長挨拶と前回議事録の確認（配布資料1-1）

鎌田委員長による開会の挨拶に引き続き、加藤委員による前回議事録の確認が行われ、以下の点を修正の上、了承された。

- ・ 2頁：表面含浸材に関する土木学会規準での説明は3/19ではなく5/18に修正
- ・ 3頁 3.(4)下から2行目：「幹事会」を「常任委員会の幹事会」に修正
- ・ 2頁 3.(2)下から1, 3行目, 3頁 3.(3)5行目, 3.(5)下から1行目：【備考】が適用範囲の備考であることを明記する
- ・ 4頁 3.(6)上から11行目：「骨材最大寸法」を「粗骨材の最大寸法」に修正
- ・ 語句の修正：基準→規準, 硫化時間→流下時間, 最アルカリ化→再アルカリ化  
供試体の作成→供試体の作製

### 2. 平成22年度 規準関連小委員会委員構成（案）（配布資料1-2）

鎌田委員長より、江口委員が小牟禮委員へ、八木委員が三谷委員へ交代すること、および補修、注入材等WGの主査として皆川委員に新たに参加いただく案が報告され、規準関連小委員会として了承された。これらの委員交代については、5/18の常任委員会で承認を得る。

また、各WGメンバーの確認が行われた。構成は以下のとおり。

- ・ プレストレストコンクリート用試験方法WGに中村委員を追記（記入漏れ）、三谷委員を追加
- ・ 鋼材、補強材WGに中村委員を追記（記入漏れ）
- ・ 補修、注入剤等WGに田中委員を追記（記入漏れ）

### 3. JSCE規準の修正案の審議

#### (1) セメント、骨材、混和材料WG（配布資料1-3-1～3）

片平主査よりC 502, D 107, D 503の修正点について説明がなされた。主な審議内容、決定事項は以下のとおり。

- ・ C 502は6.1 b) の計算式の係数を訂正した。
- ・ D 107の英文標題をSpecification for air-entraining agent for fly-ash concreteに修正する。
- ・ D 107の3.定義の「この規格で・・・」を「この規準で・・・」に、D 503の定義を「・・・用語の意味は・・・」を「・・・用語の定義は・・・」に修正する。また、用語にはアルファベットを付記する。
- ・ D 503の7.3 b) のフライアッシュ置換率(R)に%を追記する。

#### (2) 鋼材、補強材WG（配布資料1-4-1, 1-4-2）

椿主査よりE 103, E 112, E 515, E 516, E 518の修正点、名取委員より内部充てん型エポキシ樹脂被覆PC鋼より線に係わる新規規準のうち、E EP1, E EP7修正点、E EP10（引抜き試験）の追加について説明がなされた。主な審議内容、決定事項は以下のとおり。

- ・ E 103, E 112の標題に（案）をつける。
- ・ E 518の引用規格E 105の標題は現行のままとする。
- ・ 適用範囲に追記する備考は、WG提案の通りとする。
- ・ 内部充てん型エポキシ樹脂被覆PC鋼より線に係わる土木学会規準の番号は以下のとおりとする。

E EP1→E 141    E EP2→E 142    E EP3→E 143    E EP4→E 731    E EP5→E 732  
E EP6→E 733    E EP7→E 734    E EP8→E 735    E EP9→E 144    E EP10→E 736

(メール審議により追加) E PR1→E 145, E PR2→E 146, E PR3→E 147

- ・内部充てん型エポキシ樹脂に係わる規準の英文標題中の「Inspection」を「Test」に修正する。また、E EP7の解説に曲げ半径の基準を管の中心としたことについて、経緯、試験結果への影響などを追記する。
- ・常任委員会では、内部充てん型エポキシ樹脂に係わる規準の制定およびその内容について、当該委員会の二羽委員長より説明されることが確認された。

(3) フレッシュコンクリートWG (配布資料1-5-1～1-5-3)

橋本主査よりフレッシュコンクリートWG担当分の修正案の概要およびPCグラウト用漏斗の寸法精度に関する実験結果について説明がなされた。

- ・常任委員会への説明は、F 531 (PCグラウトの流動性試験), F 541 (充てんモルタルの流動性試験) について行う。なお、提出資料はF 531およびF 541の修正案, PCグラウト用漏斗の寸法精度に関する実験結果を要約したものとする。
- ・F 502は式の間違いの指摘があり、既に正誤表は作成/HPで公開済みである。2010年版に反映する。
- ・試験により、漏斗の寸法形状がWGで提案する許容値の範囲内であれば、流下時間に与える影響が小さいことを確認した。また、現在流通している漏斗は、ほとんどがこの許容値を満たすことを確認できたので、許容値案の変更は行わないこととした。

(4) 硬化コンクリートWG (配布資料1-6-1～1-6-9)

久田主査より、G 561, G 562, G 563, G 564, G 571, G 572, G 573, G 574, G 575の修正点について説明がなされた。主な審議内容、決定事項は以下のとおり。

- ・塩化物イオンに係わる規準 (G 571, G 572, G 573, G 574) について、常任委員会で説明を行うか否かについては常任委員会幹事会に判断を仰ぐ。
- ・G 561, G 562, G 574, G 575は表現、体裁の統一などの軽微な修正である。
- ・G 561の図は見やすいものに差し替える。他の規準にもあれば、同様に対応する。なお、原図の所在は事務局に確認する。
- ・G 563, G 564は、電子データを入手し、WGで軽微な修正を加えて原案とした。
- ・G 571の図4に塩化物イオンの流動流束の経時変化に関する図を追加した。
- ・G 572の全塩化物イオン分布の測定方法に、「JSCE-G 574による方法(EPMA法)」を追加した。
- ・G 573は全塩化物イオン分布を求める方法であるため、拡散係数の算出方法に係わる部分を本文から除き、附属書2として規定した。この修正については、構成の変更理由等を1. 適用範囲に備考として、示すこととし、常任委員会の幹事会に諮ることとした。
- ・附属書をJISと同様に(規定)または(参考に)区分する。本件、目次にも反映する。
  - G 571 附属書→(参考)
  - G 573 附属書1→(規定), 附属書2→(参考)
  - G 574 附属書1, 2, 3→(参考)
- ・上記附属書の位置づけが分かるよう、各土木学会規準の適用範囲に「備考」として記述する。記述の内容については主査幹事会にて確認する。

(5) 補修，注入材等WG（配布資料1-7-1～1-7-10）

濱田主査より土木学会規準 K.補修材の改正に関する概要およびK 522（透湿度試験）に用いる被塗装基材の差異について説明がなされた。

- ・ 常任委員会への説明はK 533（表面被覆材の押抜き試験方法），K 572（表面含浸材の含浸深さ測定方法），K 573（表面含浸材の透水試験方法）について行う。
- ・ K 521について，アマルガム法（水銀使用）を削除する理由等を適用範囲の備考に記述する。
- ・ K 522の報告事項に用いた基材を追加する。また，解説に基材の相違が結果に与える影響などを追記する。
- ・ K 533におけるコア抜きの深さを，実情に併せて55mm±0.5mmから55mm±3mmに変更した。
- ・ K 533の適用範囲の記述「はく落防止の主目的である，・・・」を「表面被覆材の有するコンクリート片のはく落抵抗性・・・」のような表現に修正する。また，「球面座」を「球座」に変更する。
- ・ K 572，K 573の標題を変更した（現地→実構造物）。英文標題はWG提案のとおりとする。
- ・ K 573における注水容器の設置角度（範囲）を規定することについて審議した結果，試験方法の汎用性を考慮し，本文には記述しないこととした。なお，解説に鉛直を基本としていることを記述する。

(6) 5/18常任委員会までの作業について

- ・ 5/11の常任委員会の幹事会には，修正する規準の標題など，概要説明の資料のみ提出する。ただし，G 573（全塩化物イオン分布の測定）については，規準本文案も提出する。（備考の追記が必要。事前に幹事団で確認。）
- ・ 常任委員会へ提出する資料は，5/16までに鎌田委員長へ送る。

(7) 関連基準の取扱いについて

関連規準は，基本的に提供先から入手したものをそのまま掲載する。なお，目次の作成は規準関連小委員会で対応する。

4. 規準編2010年制定講習会について（配布資料1-8）

鎌田委員長より講習会の開催について，以下の説明がなされた。

- ・ 配布資料1-8に示す日時は，規準案が7月中に完成することを想定している。
- ・ 今回の講習会は，新規規準，修正規準の説明に多くの時間を要すると思われるので，特別講演などは企画しない。
- ・ 時間配分は，委員長，幹事，WG主査で調整する。
- ・ 講習会は11/10（水），11/17（水），11/19（金）のいずれかで開催するよう準備を進める。（その後の調査により土木学会講堂は11/10(水)のみ使用可であることが判明したため，この日を候補日とすることとした。）

5. 今後のスケジュール等

鎌田委員長より示された今後のスケジュール案は以下の通り。

- ・ 5/18の常任委員会の審議結果を反映させ，6月末の主査幹事会までに原案を完成させる。その後，委員長，幹事，WG主査で最終的な調整を行う。

- ・ JIS 規格集の総頁数が 2007 年版に対して約 90 頁増える予定である。各 WG 主査は新規に掲載する規格について附属書の必要性を考慮し、本文の掲載のみとすることも検討する。
- ・ 幹事会に諮らない規準案については、体裁の調整などを開始する。
- ・ 印刷原稿の提出は 7 月末を目標とする。
- ・ 今後の作業は、メール審議を基本として進める。次回委員会開催は未定。

以上

文責：辻本（鎌田，上野確認）